

演題名	院内の光熱費削減へ（電気・ガス・水道）		
施設名	医療法人常磐会 いわき湯本病院	(ふりがな) 発表者(職種)	(かんの ゆか) 菅野 裕香(言語療法士)
(ふりがな) チーム名	(こうねつひさくげんさせたい) 光熱費削減させ隊		
分類	④無駄の削減や能率向上、業務環境の改善をめざすもの		
取り組種別	問題解決型		
改善しようとした 問題課題	<p>昨年からの光熱費が上昇傾向。 院内環境を維持・向上しつつ、水道光熱費削減の道を模索する。 特に、院内の空調で7割を占めるガス空調の使い方を検討しガスの使用量の削減を強化したい。</p>		
改善の指標と その目標値	<p>(指 標) 光熱費金額 (目標値) 昨年比10%削減</p>		
実施した対策	<p>* 契約の確認(低単価への変更) * 使用量の削減(使用方法の工夫・省エネに向けて職員への周知) 空調機の設定温度、無駄のない運用に向けて、院内ラウンドを実施。 ガスメーターを日々確認し、都度ガス空調の設定温度・使用場所の工夫を実施。 * 機器使用時間の工夫(診療に支障無く、節電出来る様、ワークフロー化) 洗面台の給湯器設定温度、及び水量の調整。</p>		
改善指標の 対策実施 前後の変化	<p>(実施前) 10,163,969円 (実施後) 10,725,431円 昨年比5.2%削減 ガスの使用量は、昨年比17.8%削減。929,338円の削減</p>		
歯止めと 標準化	<p>* 単価変動による契約の確認(低単価への検討) * 6か月に1回、研修会を行い使用方法の工夫・省エネに向けて職員への周知する。 * 院内ラウンドを実施し、無駄や不具合箇所の発見、省エネに対する意識・行動の定着化する。</p>		
活動の種類 ※複数選択可	②複数の職場が連携した活動 ④組織全体で取り組んだ活動	チーム メンバー (職種)	1 大松沢学 (総務)
活動の場 ※複数選択可	①診療部門 ②支援部門 ③管理部門		2 佐藤光 (経理)
活動期間	2024年2月～4月		3 高橋和幸 (診療放射線技師)
リーダー名 (職種)	大松沢学(総務)		4 富樫直人 (調理師)
活動回数	12 回		5 菅野裕香 (言語療法士)
			6 鮫島愛 (社会福祉士)
		7 平子真由美 (看護師)	
		8 長久保亜由美 (看護師)	
		9 島津知代 (理学療法士)	
		10 小野有希 (事務)	
		11	
		12	
		13	

【現状把握】

電気使用量

	2024	2023	
11月	50,047	48,358	▲6,896
12月	67,625	73,789	▲6,164
1月	73,208	80,104	1,689
合計	190,880	202,251	▲11,371

ガス使用量

	2024	2023	
11月	5,251	6,444	▲1,193
12月	9,025	11,337	▲2,312
1月	12,592	14,840	▲2,248
合計	26,868	32,622	▲5,754

水道使用量

	2024	2023	
1～2月	2,186	2,144	+42
合計	2,186	2,144	+42

電気使用料金

	2024	2023	
11月	1,066,116	1,433,841	▲488,323
12月	1,367,035	2,314,229	▲947,194
1月	2,073,609	2,561,932	▲367,725
合計	4,506,760	6,310,002	▲1,803,242

ガス使用料金

	2024	2023	
11月	712,613	1,243,889	▲531,276
12月	1,224,782	2,188,248	▲963,466
1月	1,708,860	2,864,503	▲1,155,643
合計	3,646,255	6,296,640	▲2,650,385

水道使用料金

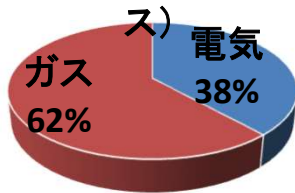
	2024	2023	
1～2月	624,642	622,118	+2,523
合計	624,642	622,118	+2,523

毎日ガスメーターの測定
↓
外気温の変化でガスの使用量の
変化が大きい

当院の1日のガス使用
量は、一般家庭の約1年
分の使用量と同等

2024年2月の各光熱費を調査
水道:68万円
電気:196万円
ガス:186万円

エアコン設置状況(電気・ガ
ス)



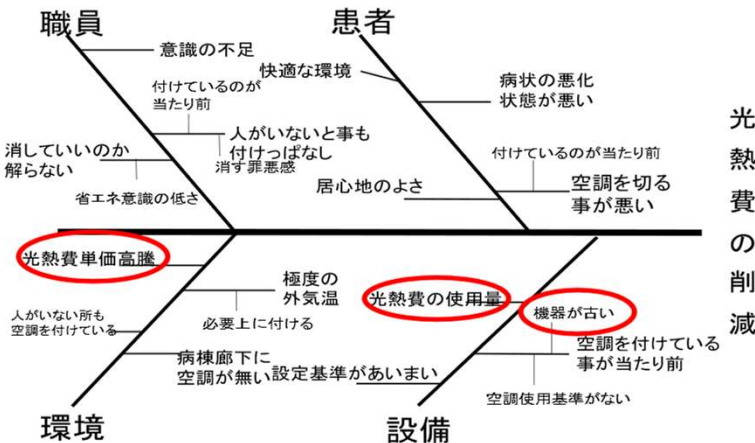
活動計画

活動内容	担当者	1月	2月	3月	4月	5月	6月
テーマの 選定	高橋	→					
現状把握	富樫	→	→				
目標設定	大松沢		→	→			
要因分析	平子		→	→			
対策立案	高橋		→	→			
対策実施	長久保			→	→	→	
効果の確 認	菅野					→	→
歯止めと 標準化	島津						→
まとめ	高橋						→

【目標設定】

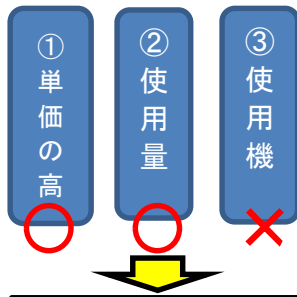
いつまでに	2024年4月末までに
何を	院内の光熱費金額を
どうする	昨年比10%削減する

要因解析



光熱費の削減

【対策立案】



【重要要因の検証】
 ① 昨年同時期の単価比較
 ② 院内ラウンドで使用状態を検証
 ③ 使用機器の使用年を調査

実施事項	誰が	いつ	どこで	なぜ	どのように
1 単価の高騰	総務事務	2月	総務	使用単価の調査	<ul style="list-style-type: none"> 単価変更のお知らせを確認 値上がり時は、相談・交渉 低単価業者も調査 電気については2023年末より着手済で、業者選定済。
2 使用量	全メンバー	2月	院内全体	効率的な使用量を行うため	<ul style="list-style-type: none"> 院内ラウンドを行い無駄や故障個所の確認 院内研修で省エネの意識向上 朝礼等で院長・Madはじめ各部署長が省エネへの啓発活動 当直者の空調確認 (Am8時~ON) 療養環境は維持しつつ省エネ。

【対策実施】

① 単価対策

電気: 2024年の単価上昇情報を業者より確認したことで、早い段階で上昇幅の小さい業者へ変更できた。
 ガス: 大口契約を継続。ガス使用機器のメンテナンス計画の組み直し。

② 使用量対策

- 1) 使用量削減ラウンドの実施・改善
 - ・照明の間引き
 - ・機器の故障箇所の確認→修繕・修理
 - ・空調設定温度の確認→設定(日本医療福祉設備協会の企画を基に)
- 2) 全体朝礼にて院長・MA-Dより省エネ指導
- 3) 経費削減(水道光熱費)に関する院内研修の実施

職員の経費削減意識の向上

【効果の確認】

【各種使用料金】



無形効果

- ・院内の省エネに対する意識向上・意識改革ができた
- ・節電意識が行動に現れるようになった (使用していない部屋の電気・エアコンのオフ等)
- ・意識の向上により、職員による不具合箇所が報告されるようになり、営繕部門が迅速に対応できるようになった

波及効果

- ・今回のTQM活動により、一人一人の意識向上→病院全体のワンチームとして活動に発展し、取り組むことが出来た
- ・今回実施出来なかったものの、各項目で継続する対策立案が出来た

光熱費全体では削減5.2%と目標未達成・・・
 ガス料金単体では17.8%の削減が出来た。

標準化と管理の定着

箇止めと標準化	実施項目	誰が	いつ	どこで	なぜ	どのように
標準化	単価の高騰	総務	単価変動連絡時	総務	単価変動による光熱費削減の為	他社との単価比較
教育	使用量	院内教育担当	6か月に1回	会議室	院内の省エネに対する全体研修を実施 意識向上の維持	職員へ周知
管理	使用量	TQMメンバー	毎週1回	各部署	省エネに対する意識・行動の定着化	院内ラウンドを実施。 無駄や不具合箇所の発見

- ・今後も単価の高騰が考えられる為、価格変動に対する対応を即座に行う
- ・院内の教育研修委員会と協力し、定期的に省エネの研修を行い、省エネに対する意識の維持を図る

反省と今後の課題

反省と今後の課題	良かった点	悪かった点	今後の課題
テーマの選定	省エネに対する意識の強化ができた		継続と業務内容の検討
現状の把握	光熱使用状況が明確化	水道料金・使用量共に効果不十分	対策の継続と強化
目標設定	現状を把握して高い目標で取り組めた		水道の検討を行いさらに使用量の削減に取り組んでいく
要因解析	特性要因図の作成により真の要因を導き出すことができた		今後も要因を解析していく
対策の立案と実施	光熱費の単価内容を見直す機会となった	水道への取り組みを行えなかった	省エネ内容の継続
効果の確認	目標が明確だったため評価はしやすかった		省エネ内容の継続
標準化と管理の定着	省エネに対する意識の向上と効果的な使用環境の構築ができた		新たな標準化と管理を加え今後もさらに省エネを目指す

- ・今回の取り組みにより、院内のエネルギーの内情が明らかとなり、業務内容を見直す機会となった
- ・省エネに対する意識の向上とシステムの構築が出来た